

D: 哲学・思想

哲学・思想 No.3

「死とは何か」を哲学で読む ― エピクロス・ハイデガー・現代の死生学

★ この講座では**大学の哲学・死生学 (thanatology)** の知識を使います。採点者は大学教員です。「エピクロスの死の無害論」「ハイデガーの死への先駆的覚悟」「死生学 (Kübler-Rossの5段階)」といった大学レベルの概念を答案に組み込むと、「死と向き合うことが大切です」と書く他の受験生と突出した差がつかます。

導入文

医師は患者の死と日常的に向き合う職業だ。「死が怖い」という感情論ではなく、大学の哲学・死生学 (thanatology) の視点を持つことで「死と向き合う医師」を論証できる。エピクロスの「死は我々に無関係だ」・ハイデガーの「死への先駆的覚悟が本来の実存を可能にする」・Kübler-Rossの5段階を使うと、採点者 (大学教員) に「哲学的に死を語れる」と伝わり、他の受験生と突出する。

講義概要

「死とは何か」を哲学・死生学の視点で体系化する。エピクロスの死の無害論・ハイデガーの存在論的死の概念・Kübler-Rossの死の受容5段階モデルを整理し、「医師が死と向き合う意味」「患者の死を支援する哲学的根拠」まで論じられる力を育てる。

授業目標：死への向き合い方を感情論から、哲学・死生学の視点で論証できる対象へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系志望で、「死と医師の向き合い方」を哲学的に論証したい生徒。

授業時間：授業90分+演習・質疑応答30分

到達目標：エピクロス・ハイデガーの死の概念を説明できる/Kübler-Rossの5段階を医療に適用できる/「医師として死とどう向き合うか」を哲学的に論証できる

授業構成 (90分) + 演習・質疑応答 (30分)

授業90分：1 導入：「患者が亡くなったとき医師はどう感じるべきか」を問いとして提示 2 エピクロス：死は我々に無関係だという「死の無害論」の意味 3 ハイデガー：死への先駆的覚悟が本来の生き方を可能にする 4 死生学：thanatologyとは何か・発展の歴史 5 Kübler-Ross：否認・怒り・取引・抑うつ・受容の5段階モデル 6 医師と死：患者の死を支援する医師の哲学的姿勢 7 演習：「医師として患者の死とどう向き合うか」を哲学的に論証する

追加30分：「告知から看取りまでの患者を支える医師の在り方」をKübler-Rossと哲学的視点で300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：エピクロス・ハイデガーの死の概念の対比/Kübler-Rossの5段階モデル図/死生学の定義と発展/医師と死の哲学的接続

課題：「医師として患者の死に向き合う意味」をエピクロスかハイデガーのいずれかの概念を使って200字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。